

近くにいる人たちで助け合える

きんじよ

近助

隣近所の助け合いによる
地域づくり

近年増加する自然災害は、私たちの生活を脅かす存在になりつつあります。地震や大雨、大雪被害など、これまでの常識を変えていくような災害が増えていきます。

また、高齢化が進む地域では高齢者だけの世帯も増え、誰かの支援が必要な世帯も増えています。

このような状況の中、実際に頼りになる大きな力は「近所同士の助け合い」、「近助」の力です。

「向こう三軒両隣」という言葉があるように、昔から生活に関わるさまざまなことを近所の助け合いで解決してきました。

しかし、さまざまな要因から昔に比べて近所づきあいは希薄になってきています。

「近所づきあいが煩わしい」と思うことも少なくありませんが、隣に住んでいる人が誰なのか分か

らなかつたり、あまり話をしたことがないことが、暮らす上での不安につながっている可能性もあります。

また、新しく引っ越してきた人からは、「どのように近所づきあいをしようか分からない」といった声も聞こえています。

個人の生活やプライバシーを大切にしながら、今の時代にあった隣近所の関係性を改めて考えてみましょう。

隣近所のちよūdい関係性を作り、いざという時の不安を解消することが、安心な地域づくりにつながります。

東町自治会の取り組み

東町自治会は、以前から農業を中心とする東町講中と昭和42年に整備された東町団地の二つの地縁組織が合併した自治会です。

同自治会は、近年の高齢化を地域全体の課題として捉えて地域内で話し合いを重ね、令和2年1月

に自治会有志16人で「東町除雪ボランティア隊」を結成しました。除雪ボランティア隊は、おもに一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯を対象に除排雪に取り組みんでいます。隊員各々が都合の良い時間で活動できるため、無理なく継続的に活動ができる工夫がなされています。また、地域内の農家へトラクターによる除雪をお願いするなど、地域住民同士の連携が図られています。



除雪作業に集まった有志の皆さん

◆東町自治会が「元気なコミュニティ特選団体」に認定

これらの取り組みが認められ、同自治会は県内のモデルになるとして、岩手県から「元気なコミュニティ特選団体」の認定を受けました。

1月11日、高橋寛寿町長に認定を報告した太田光自治会長は、「町で出来ないことでも、隣同士で助け合えばある程度のことには解決できる。この賞は個人ではなく自治会でもらったもの。受賞をきっかけにお互い助け合う雰囲気広がってほしい」と願っていました。



認定証を取り笑顔を見せる太田自治会長（左）と高橋町長（右）

近助（互近助）とは、顔の見える近くにいる人（隣近所の人たちなど）が見守り、互いに助け合う考え方を指す言葉です。

長志田自治会の取り組み

長志田地区では災害時を想定し、改めて隣近所による助け合いの仕組みづくりをスタートしました。

長志田地区は大雨時の河川の氾濫の危険性がある地域ですが、高齢化率も50%を超え、高齢者のみの世帯も近年増加しています。

誰かの支援を必要とする人が増える中、災害に備え、地域の人たちが準備しておくことや実際に取るべき行動について、班単位での話し合いを進めています。



ハザードマップを見ながら避難場所や避難ルートを確認する地区民

班ごとの話し合いで出された意見

- ▶避難場所までの避難経路
雨が降ると冠水する道路もあるのでは？
- ▶一人暮らしの人の連絡先
お子さんや親せき等の連絡先は近くの人は知っている？
- ▶避難する際に必要な物品
薬など、避難所に持っていかなければならないものは？

いざという時に備え、さまざまな場面を想定するとともに、災害時に支援できる人を増やしていくためにも、日ごろの隣近所の関係性が重要になってきます。

地域で取り組む除排雪に補助金を交付します

町は、令和4年度から自治会等の地域で取り組む除排雪に対する補助制度を試行しています。高齢者など、支援が必要な世帯の除雪や排雪を地域で取り組む場合、使用する除雪機の燃料代について、補助金を交付します。

なお、補助金を活用される場合は、事業開始前の申請が必要です。申請期限は1月31日ですので、町ホームページを確認してください。



町ホームページ

相談も受け付けています

町は自治会活動等にかかる相談にも対応しています。「自治会活動を見直したい」「他の自治会の事例を紹介してほしい」といったご相談がありましたら、中央生涯教育センターまでお問い合わせください。



● 問い合わせ先 ●
中央生涯教育センター
(☎ 44-3123)

